

2020年度受賞

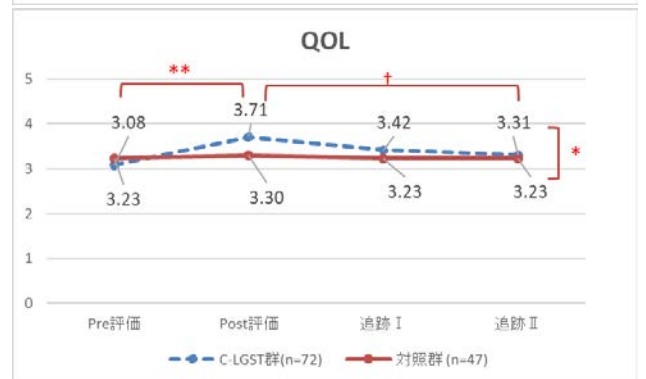
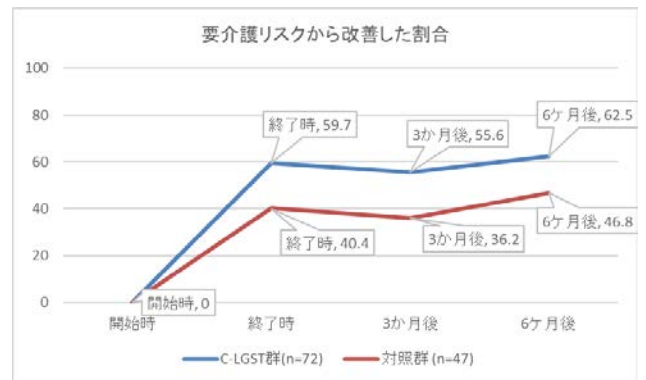
最優秀論文賞（学術誌「作業療法」38巻、2020）

論文名：「生活目標設定手法」を用いた多職種協働による介護予防
ケアマネジメントの効果に関する研究

作業療法学科
由利 禄巳 先生

【概要】

介護が必要になるリスクの高い高齢者が、週1回3ヶ月間、再び元気な生活ができるようになる方法を学ぶ介護予防教室がある。2016年に大阪府和泉市の介護予防教室において高齢者が再び活動的な生活を再構築するための面接法（生活目標設定手法）を考案した（Yuri et al）。これは作業療法の様々な手法をアレンジしたもので、高齢者が行いたい役割活動や趣味活動等を明らかにし、介護予防教室に参加するための目標として設定するものである。今回は、生活目標設定手法を用いて関係職種と連携する方法（C-LGST）を考案し実践したものである。その結果、要介護になるリスクの軽減の持続効果と、生活の質（QOL）の向上を報告した。地域包括ケアにおける作業療法の有効性と関連職種に対する作業療法の理解を促す報告として価値を認められ選出された。



研究奨励賞(第8回看護理工学会学術集会. 2020)

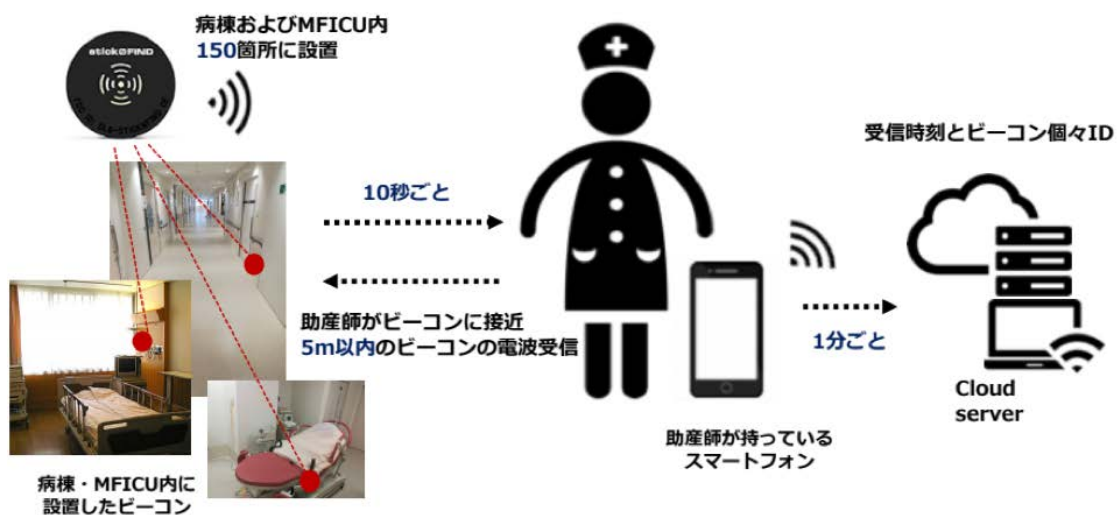
テーマ：情報通信機器を活用した総合周産期母子医療センターの夜勤帯シフトにおける助産師の滞在場所と滞在時間の分析

(Analysis of midwives' locations and durations in the night shift of the Perinatal Medical Center using information and communication equipment.)

助産学専攻科
西川 美樹 先生

共同研究者：齋藤いずみ, 大滝千文, 和泉慎太郎

助産師の適正な人員配置や主体的な妊産褥婦への関わりは、周産期死亡率や帝王切開率、過度な医療介入の低下につながると報告されている。しかし、わが国では助産師の適正配置に関する明確な基準が設けられていないのが現状である。本研究では、「看工連携」のもと情報通信機器を活用し、従来の研究技法では困難であった病棟全体で行われている看護の実態を同時に測定しその全容解明を目指した。助産師適正配置の検討のために、総合周産期母子医療センターの看護を可視化した本研究成果は学会で評価を得て研究奨励賞受賞に至った。





診療放射線学科
奥村 雅彦 先生

JRC2020「学術賞」(日本ラジオロジー協会主催)

学会名：JRC2020 (下記4団体共同開催の学術大会)

日本医学放射線学会 (JRS)

日本放射線技術学会 (JSRT)

日本画像医療システム工業会 (JIRA)

日本医学物理学会 (JSMP)

JRC2020は、日本医学放射線学会 (JRS)、日本放射線技術学会 (JSRT)、日本画像医療システム工業会 (JIRA)、日本医学物理学会 (JSMP) の4団体が共同で開催する年に一度の大規模な学術大会である。これまでの宿題報告、学会誌・英語論文誌の執筆、学術大会におけるパネリスト経験など、数多くの功績と実績が評価され、JSRT (日本放射線技術学会) の「学術賞」を受賞した。

【宿題報告】

テーマ：放射線治療専門放射線技師に求められる高精度放射線治療における物理・技術的品質保証

英訳：Integrated Quality Assurance of high-precision radiotherapy for Radiotherapy Technologist

大会：日本放射線技術学会第73回総会学術大会. 2017 宿題報告

概要：放射線治療患者数の増加と高精度放射線治療の普及にともなって、診療放射線技師の診療業務は質・量ともに増大した。それにともない、直線加速器装置や治療計画装置における専門的知識を基本として経験とデータ蓄積を包含した物理・技術的スキルが求められる。また、照射期間中の患者との信頼関係は、治療を安全に完遂する上において重要なポイントであり、コミュニケーション能力、認知・接遇能力などノンテクニカルスキルの向上と医師や看護師とのチーム医療体制の構築がポイントとなる。高精度放射線治療時代を向かえた放射線治療を専門とする診療放射線技師において必要かつ求められるテクニカルスキル、ノンテクニカルスキルとは何かについて実践例を通して報告を行った。